

海自横須賀基地ツアーに参加して感嘆の声



護衛艦「きりしま」にて
対象者と担当教諭

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一等陸尉）は、7月25日（水）、海上自衛隊横須賀地方総監が主催する横須賀基地ツアーを実施した。当日は神奈川県内からは約15名、他県からも多くの募集対象者及び学校教諭等が参加し、海上自衛隊の概要説明、曳船体験航海及び護衛艦「きりしま」の艦艇見学等を実施した。

各説明や見学の合間に海上自衛官との懇談も実施され、参加者からは「職種について教えてください」と始め、護衛艦についての質問が出る等の真剣な姿が印象的だった。

また、港内クルーズではたまたま海側に停泊していた護衛艦「いずも」を初めて眺めた方からは、「大きいなあ」とか「乗ってみたい」と感嘆の声が漏れ、対象者もこのツアーを存分に楽しんでいる様子だった。

その後は、待ちに待った体験喫食の時間となり、このツアーで自衛隊の食事を如何に楽しみにしていたのか、隊員食堂ではさまざまな配食の写真を撮る等していた。また売店で識別帽を購入して満足そうに被っている姿を見ると自衛隊にとっても興味を持っている状況が窺え、同行した広報官も喜びが溢れていた。

上大岡募集案内所は、「今後も、このような体験ツアーへ積極的に対象者等を案内し、自衛隊に対する理解促進及び志願者情報の獲得に努めていきたい」としている。

職場体験で海上自衛隊の作業服や消防服を着て御満悦



海上自衛官の作業服で
職場体験に臨む高校生ら



こんな立派な敬礼ができるようになりました！（離隊式にて）



消防服に着替えていざ出動！

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一等陸尉）は、8月6日（月）と7日（火）の2日間、海上自衛隊館山基地で実施された隊内生活体験を支援した。

これは、学生らの夏休みの時期に例年2泊3日で行われているもので、今年には台風の影響で1泊2日になったものの、神奈川県から4名の現役高校生が参加した。

事務所を出発する時は、お互い初対面ということもあり、やや緊張が見られたが、海上自衛隊館山基地に到着すると、早速海上自衛官の作業服に着替え、神奈川県出身同士で肩を組み写真に納まるなど、和やかな雰囲気ですたーとした。

1日目の入講式では、やや不安そうにしている者もいたが他県参加者ともすぐに打ち解け、猛暑の中、基本教練やベッドメイキング等、大汗をかきながら臨んでいた。

2日目の管制塔やレーダー室見学では、教官に質問をするなど多くの学生が興味を示した他、ドッグタグ作成では真剣に楽しみながら取り組んでいる姿が印象的だった。

他にも消防訓練で消防服を試着する等の、初めての体験にやや戸惑いながらも皆ご満悦な様子が見られた。

この2日間の体験を無事終了した参加者からは「色々な体験が出来て楽しかった」とか「自衛隊の訓練を経験出来て、今後の自信になります」と、充実感いっぱい頼もしい感想が聞かれた。

上大岡募集案内所は、「今後もこのような貴重な広報活動へ参加者を積極的に案内し、募集及び防衛基盤の拡充を図っていきたい」としている。

富士総合火力演習

「援護協力企業に対し自衛隊の理解を促進」



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 兼本 貢祐）は、8月23日（木）、県内企業による自衛隊退職者の援護協力組織である自衛隊神奈川援護懇話会が実施する東富士演習場畑岡地区で執り行われた「平成30年度富士総合火力演習研修」を支援した。

当日は、台風19号・20号のあおりを受け、雨が降ったり止んだりのおいにくの天候ではあったが昨年度を上回る24社、51名の参加者が有り自衛隊への関心の高さが実感できた。

研修では、前段として陸上自衛隊の主要装備品紹介に続き、それぞれの火砲から轟音が響き渡り、的を命中させるたびに驚きの声とともに上り大きな拍手と歓声が沸いた。

後段として島嶼部に対する攻撃への対応演習が実施され、「即応機動する陸上防衛力」の作戦模様を間近で研修が出来て大満足の様子であった。

同地本は、今後も自衛隊神奈川援護懇話会の活動を積極的に支援し、自衛隊に対する更なる理解を得て退職自衛官の雇用の促進、処遇の向上に結びつけたいとしている。